

冷凍ほうれんそうに関わり20年、原料を県内産に こだわり地産地消を推進

～丸宮青果食品有限会社(長崎県小浜町)～



1 組織の概要

組織名称	丸宮青果食品有限会社
業種	食料品製造業者
代表者名	代表取締役社長 宮本 俊治
所在地	長崎県雲仙市小浜町北野1500
連絡先	TEL:0957-74-2757 FAX:0957-74-3341
取扱品目	冷凍加工・業務用野菜 9 割、その他(冷菓・菓子等) 1 割
社員数	48名(正社員10名、パート38名)

2 取組の推移

昭和22年	宮本商店として発足
昭和45年	丸宮青果有限会社設立
昭和48年頃	農産物処理加工施設(みかん選果場・倉庫)整備
昭和51年頃	冷凍食品製造をはじめ大手ジャム製造業者と契約(冷凍いちご)
昭和61年	丸宮青果食品有限会社へ名称変更
昭和54年頃	たけのこ水煮製造開始
平成5年頃	たけのこ水煮製造工場から冷凍カットほうれんそう工場へ転換
平成17年	農業生産法人「みやもと農園」設立。20年諫早干拓で営農開始

3 加工・業務用野菜の取組概要

(1) 基礎情報

主な野菜品目	ほうれんそう	小松菜	チンゲンサイ	いちご
主な用途	冷凍食品	冷凍食品	冷凍食品	ジャム
年間使用量	600t	50t	10t	230t
国産使用比率	100%	100%	100%	100%
主な産地 (入荷時期)	長崎県・熊本県・福岡県 佐賀県・宮崎県 (11月～5月)	長崎県・宮崎県 (10月～5月)	長崎県 (12月～5月)	長崎県・熊本県 (3月下旬～6月上旬)
主な原料調達先	みやもと農園 JA等	みやもと農園 その他農園	みやもと農園	JA 契約農家
原料の受入形態	7kgコンテナ	7kgコンテナ	7kgコンテナ	7kgコンテナ 2kg段ボール
製品出荷先	学校給食用・業務用	学校給食用	学校給食用	ジャム製造業者

注:年間使用量、国内使用比率は25年度データ

(2) 取組の特徴

ほうれんそうの一次加工やいちご等の県内農産物の加工に積極的に取組むとともに、原料を安定的に仕入れるため、諫早干拓内に関連企業農業生産法人「みやもと農園」を設立。

- ①20年以上前から冷凍ほうれんそうを扱い、九州を中心に学校給食会へ出荷。
- ②ほうれんそうやいちご等の県内農産物の加工に積極的に取組み、地産地消に貢献。
- ③実需者ニーズに対応し、現在10種類以上の産品を加工。個別包装(250g～300g)からブロック(1kg、5kg、10kg)まで、形状もカット、スライス、乱切りなど多種多様。

(3) 国産原材料の使用理由

顔の見える生産者や地産地消にこだわり原料用野菜は九州産を利用している。特にほうれんそうは播種前契約を実施。

(4) 関係機関の支援

- ①JA全農ながさき、各関係JA、県内食品加工業者による「長崎県JA加工業務用野菜協議会」に参加し活動。
- ②また、県が事務局である「長崎県加工業務用産地育成協議会」の協議会メンバーとして産地づくりを推進。

4 販売先の開拓

- ①安定的に原料を調達し製品化することで大口実需者からの契約を目指す。
- ②「ブロッコリー」など新たな品目に取り組むことで新規開拓を図る。

5 課題とその対応

- ①夏季の原料用野菜の調達(工場未稼働時の対応)が出来ていないため産地・品目を検討中。
- ②工場の稼働に際し、主力製品であるほうれんそうの安定的かつ平準化した供給体制を構築するため播種期をずらすなど長期にわたる収穫を実現。
- ③農薬飛散(ドリフト)による収穫放棄が懸念されることから、生産者に対し農薬使用基準(農薬のラベルに表示されている使用方法)遵守を徹底させる。
- ④環境保全型農業を実施している諫早干拓内での雑草対策を行政・試験研究機関等と連携し検討中。
- ⑤低迷する消費に対応するため新たな新商品の開発(郷土麺料理で、芋の粉で作った「いきなり六兵衛どん」)を行うなど地域の特産品を発掘。

6 取組成果

- ①原料の安定調達で継続的な農産物処理加工施設の稼働が可能となり地域での雇用が発生。
- ②取引先との意見交換を十分に行うことで、双方に信頼できる関係が構築でき、安定した契約取引(播種前に数量での契約)。

7 今後の展開

国内産「たけのこ」の需要増を踏まえ、処理加工の施設整備を行うか検討中。

8 その他

(生産者や産地への要望)国産野菜の消費拡大を継続して行うため、安心・安全な農産物を生産・出荷することが重要であり、そのために、農薬の適正使用の遵守や生産費の削減(収量の上がる品種開発や作業の効率化)が必要。